

光システムケーブル (PDA-H05)

設置マニュアル(Ver.1.0)

本マニュアルは光システムケーブルの設置、施工、取り扱いについての注意および参考例を示したものです。個々の設置、施工にあたっては、設置場所の構造、材質、強度、周囲の状況などを充分検討し、適切な設置方法を選ぶとともに、確実に設置工事を行ってください。確実に設置工事を行えない恐れがある場合には、お客様への販売と、設置や施工はおやめください。

ご注意：

- ・ 当社の供給した部品以外の不具合により発生した損害に対しては、当社は一切責任を負いません。
- ・ 性能上の保証については、本設置マニュアルに基づいて、組み立て・調整を行った場合のみ保証します。
- ・ 本設置マニュアルに記載された仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

安全のために



本文中に記載されているこの表示は、誤った使い方をした場合、あなたや他の人々に危険を及ぼす恐れのあることについて書いています。必ずお読みください。

目次

1. 製品概要	2
2. 安全上のご注意	2
3. 仕様	5
4. 構成部品	6
5. 外形図	7
6. 各部の名称	8
7. 設置環境	9
7-1 温度条件、湿度条件	9
7-2 結露について	9
7-3 リピータ Box の固定のしかた	9
7-4 その他の設置条件	9
8. 配線を CD 管に通す場合	10
8-1 CD (コンバインドダクト) 管について	10
8-2 CD 管の設置における注意	10
8-3 通線作業について	10
8-4 通線をする場合の配線のまとめ方について ..	11
9. 光システムケーブルの接続の手順	12
9-1 メディアレシーバとの接続	12
9-2 プラズマディスプレイとの接続	13
9-3 光ケーブルの接続	15
9-4 AC/DC 電源アダプタの接続	16
10. トラブルシューティング (故障かな?と思ったら) ...	17
11. アフターサービス	22

⚠ 警告

- ・ 人身および物的損害の発生を防止するため、組立・施工・移動・調整前には必ず本マニュアルおよび全ての本体ラベルを読み、それに従ってください。
- ・ 水分侵入による火災・感電防止のため、屋外には設置しないでください。
- ・ 人身傷害防止のため、当システムのシャープエッジの部分には充分注意してください。
- ・ 高所で設置作業をする場合は、転落防止と物品落下による傷害を防止するため、立ち入り禁止区域を設定して行ってください。
- ・ 火災や感電防止のため、内部に異物を入れたり、改造したりしないでください。
- ・ 下記の使用動作環境を遵守してください。
温度: 0 ~ 40℃
湿度: 85% 以下
- ・ 動作環境は、十分な通気を行い、組立完成後も守ってください。

1. 製品概要

本製品により、ディスプレイとメディアレシーバの接続距離を最大 30 メートルまで延長することが可能になります。

2. 安全上のご注意

ご使用前に「安全上のご注意」を必ず読み、正しく安全にご使用ください。

この設置マニュアルおよび製品には、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産の損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。



警告

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



注意

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例



△ 記号は注意 (警告を含む) しなければならない内容であることを示しています。図の中に具体的な注意内容 (左図の場合は感電注意) が描かれています。



⊘ 記号は禁止 (やってはいけないこと) を示しています。図の中や近くに具体的な禁止内容 (左図の場合は分解禁止) が描かれています。



● 記号は行動を強制したり指示する内容を示しています。図の中に具体的な指示内容 (左図の場合は電源プラグをコンセントから抜く) が描かれています。

警告

異常時の処置

<p>万一煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに本機の電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して、販売店に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対にしないでください。</p>	 プラグを抜く	<p>画面が映らない、音が出ないなどの故障状態のまま使用しないでください。火災・感電の原因となります。すぐに本機の電源プラグをコンセントから抜いて、販売店に修理をご依頼ください。</p>	 プラグを抜く
<p>万一内部に水や異物などが入った場合は、すぐに本機の電源プラグをコンセントから抜いて、販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。</p>	 プラグを抜く	<p>万一、本機を落としたり転倒させることにより、キャビネットあるいはパネルを破損した場合は、すぐに本機の電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。</p>	 プラグを抜く

設置

<p>振動の多い所やぐらついた台や傾いたところなどを避け、安定した場所に置いてください。本機には、転倒防止の処置を行ってください。転倒防止を行わないと、落ちたり、倒れたりしてけがの原因となります。</p>	 注意	<p>電源コードの上に重いものを載せたり、コードが本機の下敷きにならないようにしてください。コードの上を敷物などで覆うことにより、それに気づかず、重いものを載せてしまうことがあります。重いものを載せるとコードが傷ついて、火災・感電の原因となります。</p>	 禁止
--	---	--	---

使用環境

<p>本機の内部に水が入ったり、濡らさないようご注意ください。屋外や風呂場など、水場では使用しないでください。火災・感電の原因となります。</p>	 禁止	<p>電源電圧（交流100ボルト）以外の電圧で使用しないでください。火災・感電の原因となります。</p>	 100V以外禁止
---	---	--	---

使用方法

<p>本機を使用できるのは日本国内のみです。船舶などの直流（DC）電源には接続しないでください。火災の原因となります。</p>	 禁止	<p>本機のキャビネットを外したり、改造したりしないでください。内部には電圧の高い部分があり、火災・感電の原因となります。内部の点検・調整・修理は、販売店にご依頼ください。</p>	 分解禁止
<p>本機の上に花瓶、コップ、化粧品、薬品や水などの入った容器または小さな金属物を置かないでください。こぼれたり、落下して中に入った場合、火災・感電の原因となります。</p>	 禁止	<p>電源プラグの刃および刃の付近にホコリや金属物が付着している場合は、電源プラグを抜いてから乾いた布で取り除いてください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。</p>	 ほこり除去
<p>本機の通風孔などから、内部に金属類や燃えやすいものなど異物を差し込んだり、落としたりしないでください。火災・感電の原因となります。特に小さなお子様のいるご家庭ではご注意ください。</p>	 禁止	<p>電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、ひっぱったり、加熱したりしないでください。コードが破損して火災・感電の原因となります。コードが傷んだら（芯線の露出、断線など）、販売店に交換をご依頼ください。</p>	 禁止
<p>雷が鳴り出したらすぐに使用を中止して、アンテナ線や電源プラグには触れないでください。感電の原因となります。</p>	 接触禁止	<p>トランスミッタ Box の電源が ON の間は、決して光レセプタクルの内部および光コネクタ先端部を直視しないでください。レーザー光が目にあたると視力障害を起こすことがあります。</p>	 禁止

2. 安全上のご注意

注意		
設置		
濡れた手で電源プラグを抜き差ししたり、本機を操作したりしないでください。感電の原因となることがあります。	 禁止	お手入れの際は安全のために電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。  プラグを抜く
電源プラグを抜くときは、電源コードを引っばらないでください。コードが傷つき火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。	 禁止	窓を閉め切った自動車の中や、直射日光が当たる場所、エアコン・ヒーターの吹き出し口など、異常に温度が高くなる場所に放置しないでください。熱による変形や、本機内部の部品に悪影響を与え、火災の原因となることがあります。
本機の上にものを置かないでください。バランスが崩れて倒れたり、落下してけがの原因となることがあります。	 禁止	必ず3芯コンセントから電源を取り、確実に接地してご使用ください。  アース線を接続せよ
電源コードを熱器具に近づけないでください。コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。	 禁止	電源プラグはコンセントに根元まで確実に差し込んでください。差し込みが不完全ですと発熱したりホコリが付着して火災の原因となることがあります。また、電源プラグの刃に触れると感電することがあります。  確実に差す
移動させる場合は本機の電源プラグをコンセントから抜き、外部コード、転倒防止具を外したことを確認してください。コード類を外さずに移動するとコードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。	 プラグを抜く	電源プラグは、根元まで差し込んでみがあるコンセントには接続しないでください。発熱して火災の原因となることがあります。販売店や電気工事店にコンセントの交換を依頼してください。
本機を調理台や加湿器、エアコンの吹き出し口のそばなど高温、多湿になる場所あるいは油煙やホコリの多い場所には置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。	 禁止	オーディオ機器やビデオ機器など、他の機器と組み合わせて使用する場合は、本機の電源プラグをコンセントから抜いたあとに接続してください。  プラグを抜く
使用環境		
本機を冷え切った状態のまま室内に持ち込んだり、急に室温を上げたりすると、動作部に露が生じ（結露）、本機の性能を十分に発揮できなくなるばかりでなく、故障の原因となることがあります。このような場合は、よく乾燥するまで放置するか、徐々に室温を上げてからご使用ください。	 注意	長期間ご使用にならないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。  プラグを抜く
		周囲温度は0～40℃の範囲内でご使用ください。  注意
使用方法		
長時間音が歪んだ状態で使わないでください。スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。	 禁止	本機に乗ったり、ぶら下がったりしないでください。特にお子様はご注意ください。倒れたり、こわれたりしてけがの原因となることがあります。  禁止
		本機は付属のACアダプタをご使用ください。それ以外のものを使用すると、火災の原因となることがあります。  注意

3. 仕様

外形寸法（幅×奥行×高さ）

- トランスミッタ Box/ レシーバ Box：幅 89.4 mm、奥行 27.5 mm、高さ 97 mm
- AC/DC 電源アダプタ：幅 60 mm、奥行 33 mm、高さ 95 mm
- 光コネクタ：幅 23 mm、奥行 9.2 mm、高さ 36.7 mm

質量

- トランスミッタ Box/ レシーバ Box：490 g
- AC/DC 電源アダプタ：180 g

消費電力： トランスミッタ Box/ レシーバ Box：6 W

定格電圧： AC100 V

定格周波数： 50/60 Hz

ケーブル長 / 質量

- システムケーブル（コネクタ：白）：0.75 m /（リピータ Box と一体）
- システムケーブル（コネクタ：黒 / 銀）：0.75 m / 100 g
- 光ケーブル：30 m / 550 g

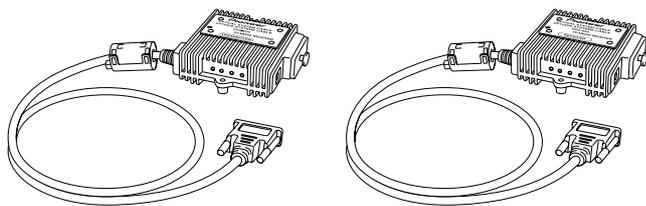
梱包寸法（幅×奥行×高さ）：幅 415 mm、奥行 315 mm、高さ 130 mm

梱包質量：4.0 kg

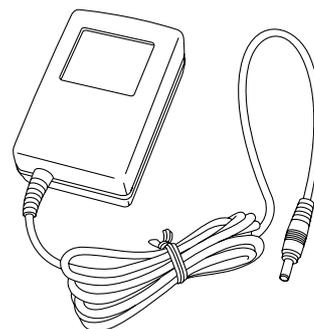
動作環境温度範囲：0～40℃（設置条件によって左右されます）

動作環境湿度範囲：85%以下（結露させないこと）

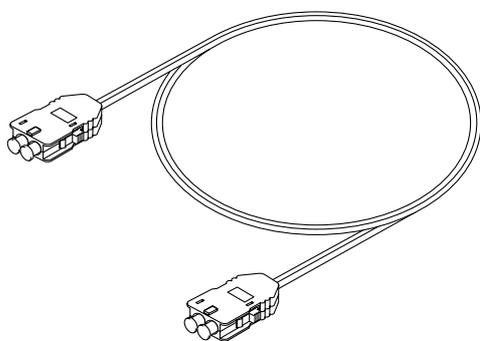
4. 構成品



- リピータBox (トランスミッタ ×1、レシーバ ×1)

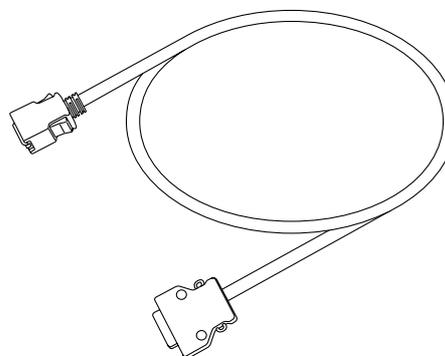


- AC/DC 電源アダプタ ×2

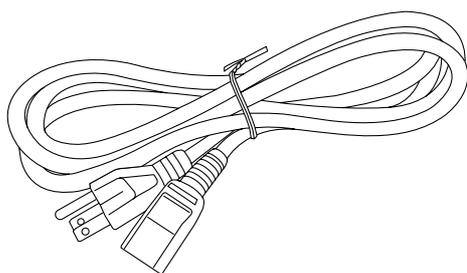


- 光ケーブル ×1

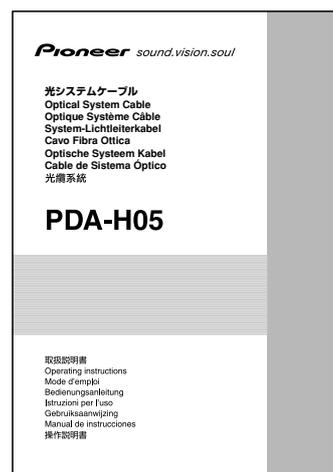
注意：曲率半径15mm以下に曲げないでください。



- システムケーブル (コネクタ：黒/銀) ×2



- 電源コード ×2
- AC変換プラグ ×2
- 保証書 ×1

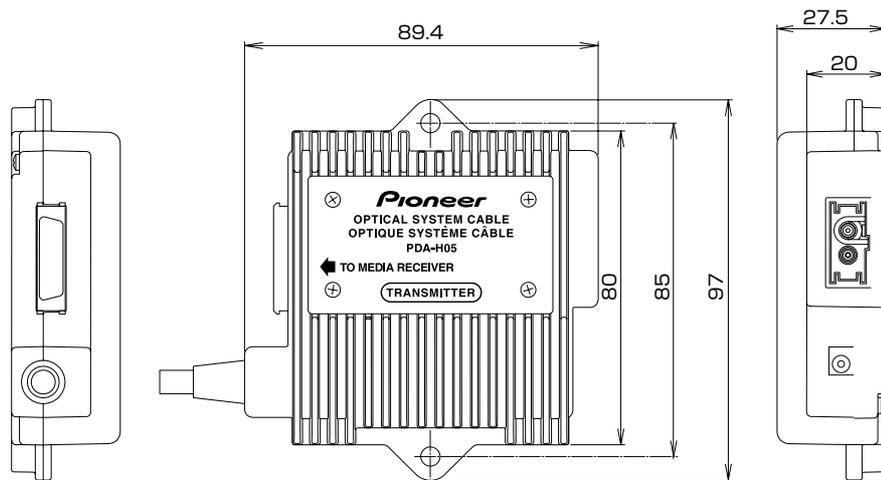


- 取扱説明書 ×1

5. 外形図

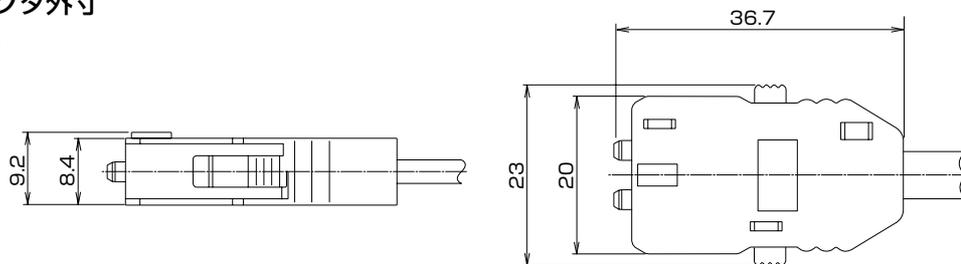
■ リピータ Box 内本体外寸

単位：mm



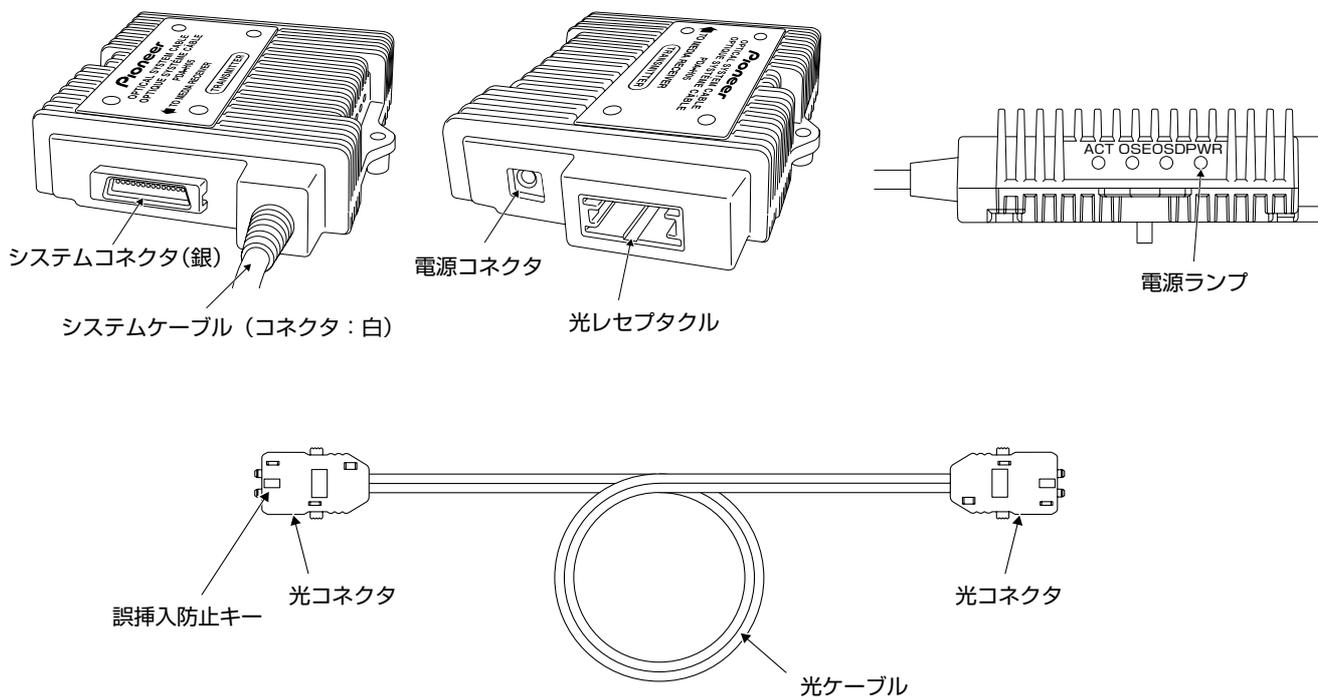
■ 光コネクタ外寸

単位：mm



6. 各部の名称

リピータ Box 内の電源ランプ／コネクタ名称一覧



7. 設置環境

7-1 温度条件、湿度条件

設置する場所の温度、湿度に関しては、以下の条件を厳守してください。

- ・動作可能温度：0～40℃（設置条件によって左右されます。）
- ・動作可能湿度：85%以下

本機のような電子機器は一般的に高湿環境下への設置は好ましくありません。

多少とも高湿が予想される場合は以下の点に注意してください。

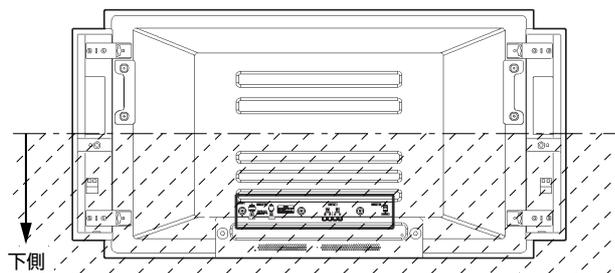
- ・本機のスペック範囲外の環境には絶対に設置しないこと。
- ・アースをとること。
- ・結露させないこと。
- ・水滴が落ちないようにすること。

7-2 結露について

冬季などに起こるトラブルの原因のひとつに「結露」があります。これは本機を設置した部屋の室温を急に上げたりしますと、セット内部に露が生じることで、性能を十分に発揮できなくなることがあります。このような場合は、いったん電源を切り、1時間程度放置してから、もう一度電源を入れてください。また、少しずつ室温を上げるのもひとつの方法です。

7-3 リピータ Box の固定のしかた

- ・壁掛けなどでリピータBoxを固定する場合は、両側のタブにある固定用穴を利用してください。(6.各部の名称を参照)
- ・プラズマディスプレイ本体の背後に設置する場合は、排気による温度上昇を避けるため、プラズマディスプレイ本体の中心線より下側に設置してください。



- ・リピータ Box の取り付け方向については特に指定がありませんので、配線の都合の良い方向に設置してください。
※ただし、放熱の妨げになるもので困ったりしないように注意してください。

7-4 その他の設置条件

本機は屋内向けに作られており、屋外の使用に耐えうる設計となっておりません。半屋外に設置する場合は、以下の点が故障の原因となる恐れがありますので十分注意してください。また、屋内に設置する場合でも同様の影響を受ける恐れのある場合は、ケーシング冷却などの外気遮断が必要となることがあります。

- ・水、ほこり、塵
- ・温度差、湿度差
- ・潮風

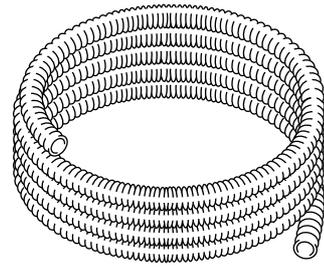
注意：

- 光ケーブルは衝撃やストレスを加えると断線することがあります。固定する場合、ステップルなど衝撃のかかる方法はさけ、衝撃・ストレスのかからない方法で固定するようにしてください。
- 接続された各コネクタに、直接ストレスがかからないように線材を引き回したり、束線してください。ストレスがかかったまま使用するとコネクタの破損や断線、接触不良の原因になります。余分になったケーブルを巻き取って束ねたりする場合、光ケーブルの最小曲げ半径が15mm（直径30mm）以下にならないようにしてください。

8. 配線を CD 管に通す場合

8-1 CD (コンバインドダクト) 管について

CDはコンバインドダクトの略称です。CD (コンバインドダクト) 管は、ポリエチレン管で難燃性ではないため、一般にはコンクリート内の埋め込み用、または地中配線工事の保護管として使われます。



CD 管の寸法		
管の呼び方	内径 (mm)	外形 (mm)
CD-28	28	34

※ 光システムケーブルに使用できる呼び径は、使用しているコネクタの外形の関係で、CD-28 以上となります。それより小径のものは使用できませんのでご注意ください。

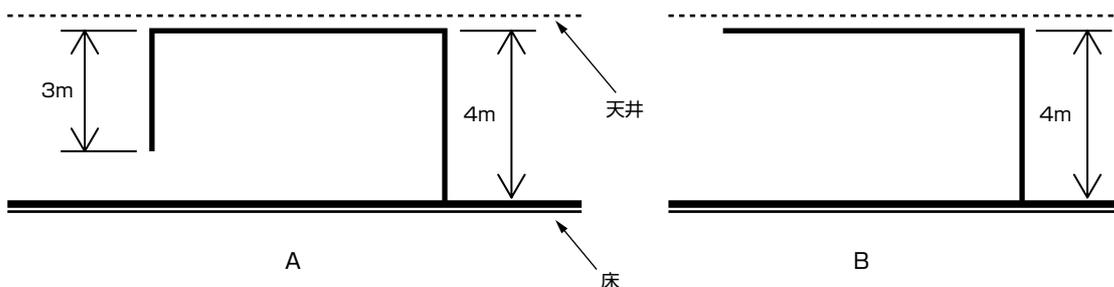
8-2 CD 管の設置における注意

CD管の中に30m近く線材を通すことは、水平に設置されている状態でも大変なことです。さらに実際には、曲がったり、垂直に上げたり下げたりしますので負荷が大きくなり、設置が困難になることがありますので次の条件を目安にしてください。

1. 曲げ半径を 500mm 以上としてください。
(8-4 で説明している、通線するときの先端のまとめ方ですと、500mm 以下では曲がりません。)
2. 垂直上下方向の総行程が 7m 以下で、上下方向の高低差を 3m 以下としてください。

例：

	上り行程	下り行程	上下総行程 7m 以下		上下高低差 3m 以下		総合判定
			総行程	判定	高低差	判定	
A の場合	4m	3m	7m	○	1m	○	○
B の場合	4m	0m	4m	○	4m	×	×

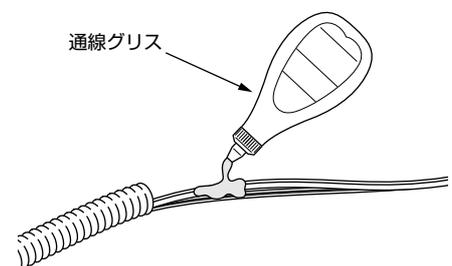


※ 1、2 の条件をクリアできない場合は、CD 管を途中で切り、分割して通線してください。

8-3 通線作業について

CD 管に呼び線が挿入されているときは、呼び線にケーブルをつないで引っ張ります。つなぎ部は通線作業中に外れないように、さらにできるだけ突起のないようにします。呼び線が挿入されていないときは通線ワイヤーを使用します。通線ワイヤーは全長 30m 位のものを用意します。ケーブルが途中で CD 管との摩擦が大きくなり引ききれなくなることがあります。このような場合には、ケーブルの動きを滑らかにする通線グリス、またはパウダーを使用してください。

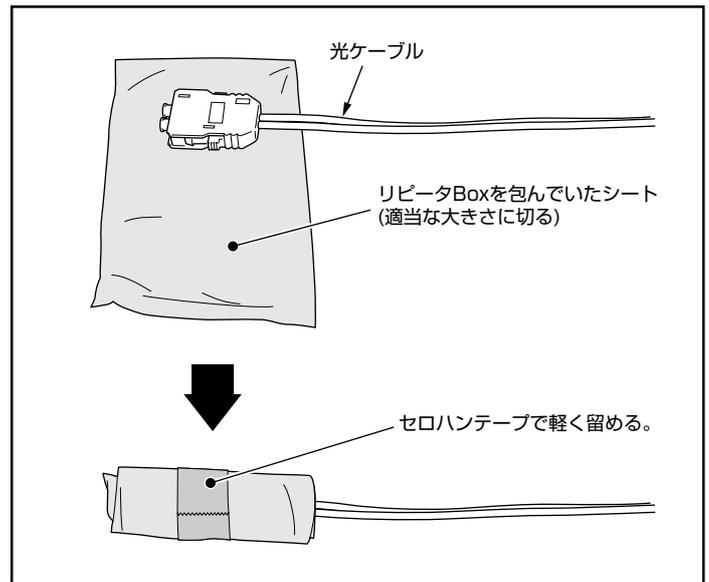
CD 管の通線作業には、通線グリスを用意することをお勧めします。しかし、グリスを使用しても 30m の長さになると動かなくなります。そのような場合には CD 管を途中でカットして一旦線材を引出してから、次の CD 管に通すという方法を取ります。



8-4 通線をする場合の配線のまとめ方について

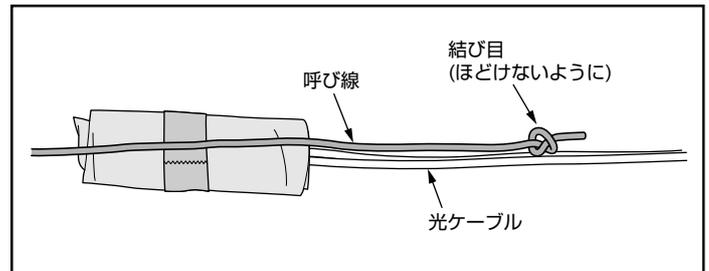
手順 1

コネクタをシートで包む。



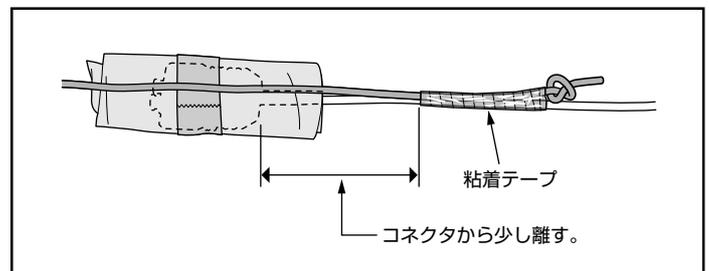
手順 2

光ケーブルと呼び線を重ねる。



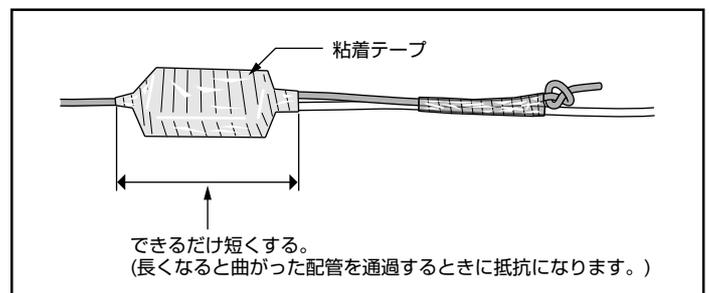
手順 3

結び目がほどけないように注意して、光ケーブルと呼び線を粘着テープで束ねる。
引っ張るときの強度はこの部分に持たせます。



手順 4

コネクタが暴れて引っ掛らないように、保護もかねて通線グリスを塗布した粘着テープでコネクタを固定する。



注意：

- ・ 光ケーブルを引っ張るときは、コネクタのみを引っ張らないでください。
- ・ コネクタに直接力が加わるように呼び線を束線しますと、コネクタが引き抜けることがありますので絶対におやめください。
- ・ 光ケーブルを引っ張るときの力は、40N（ニュートン）以下にしてください。
40N（ニュートン）以上で引っ張ると光ケーブルの性能が悪化することがあります。

9. 光システムケーブルの接続の手順

下記の手順に従って確実に接続してください。また、作業の際には必ずプラズマディスプレイとメディアレシーバの電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。

注意：

光システムケーブルを接続するまで、トランスミッタ／レシーバBoxの防塵カバーならびに光ケーブル用の防塵キャップは外さないでください。

9-1 メディアレシーバとの接続

トランスミッタのシステムケーブル（コネクタ：白）をメディアレシーバに接続します。

注意：

- ケーブルを壁にかける場合は、きつく留め過ぎたり、曲げ過ぎたりしないようご注意ください。
- システムケーブル（コネクタ：白）のコネクタ先端部に衝撃を与えないでください。金属部が変形してコネクタの抜き差しができなくなる恐れがあります。

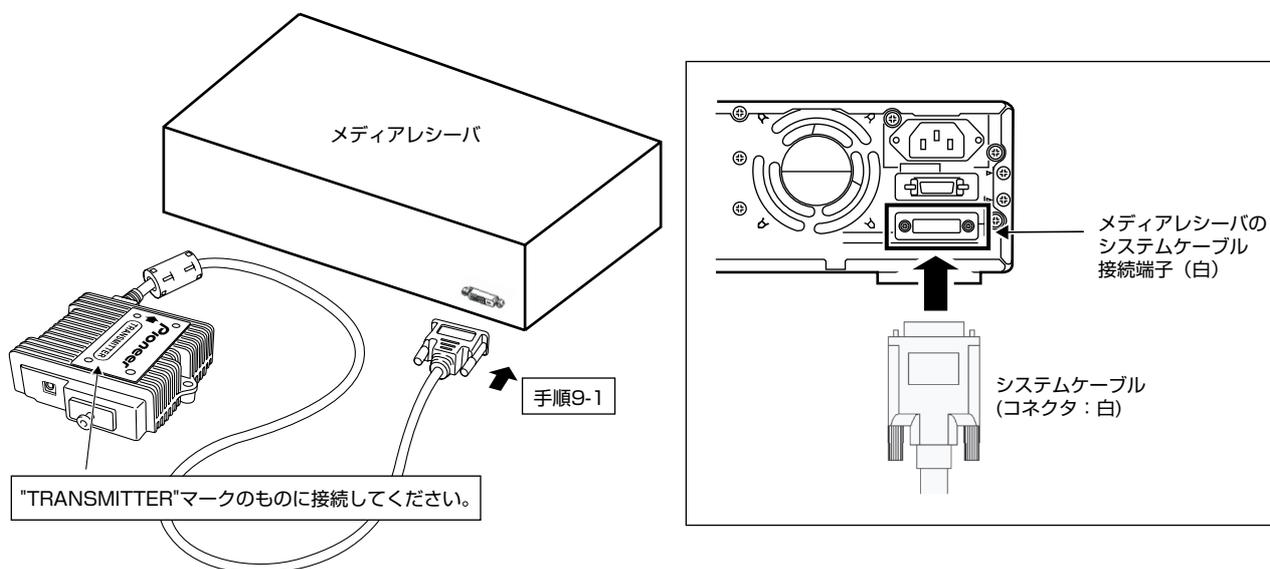


図1 トランスミッタBoxとメディアレシーバをシステムコネクタ（白）で接続

9-2 プラズマディスプレイとの接続

手順 9-1 と同じ手順で、レシーバのシステムケーブル（コネクタ：白）をディスプレイに接続します。

注意：
システムケーブル（コネクタ：白）のコネクタ先端部に衝撃を与えないでください。
金属部が変形してコネクタの抜き差しができなくなる恐れがあります。

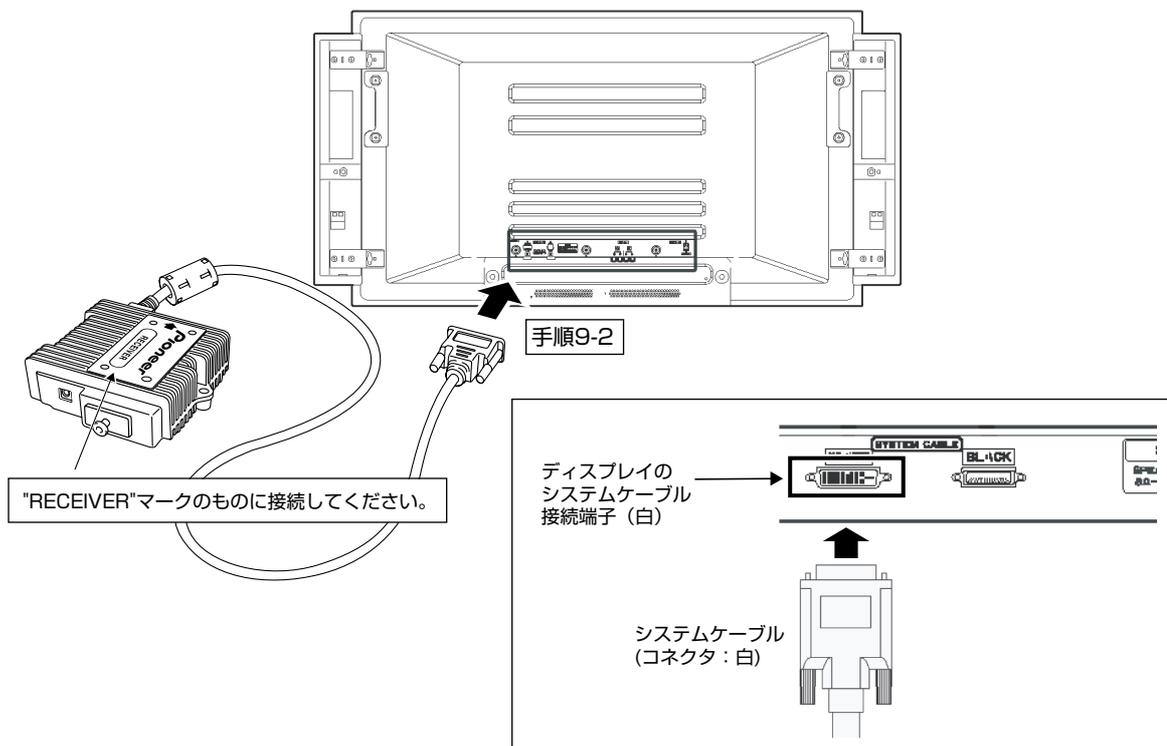


図2 -レシーバBox とディスプレイをシステムコネクタ（白）で接続

次に、システムケーブル（コネクタ：銀）を図3のようにトランスミッタBox、レシーバBoxそれぞれのシステムコネクタ(銀)に接続してください。

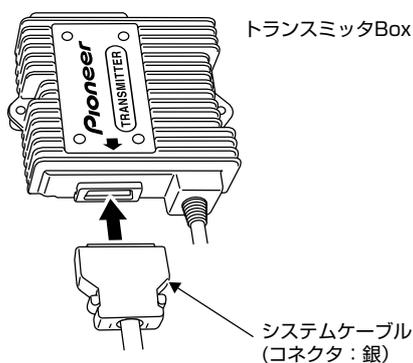


図3 -システムケーブル（コネクタ：銀）の接続

9. 光システムケーブルの接続の手順

システムケーブル（コネクタ：黒）を図4で示すように接続してください。

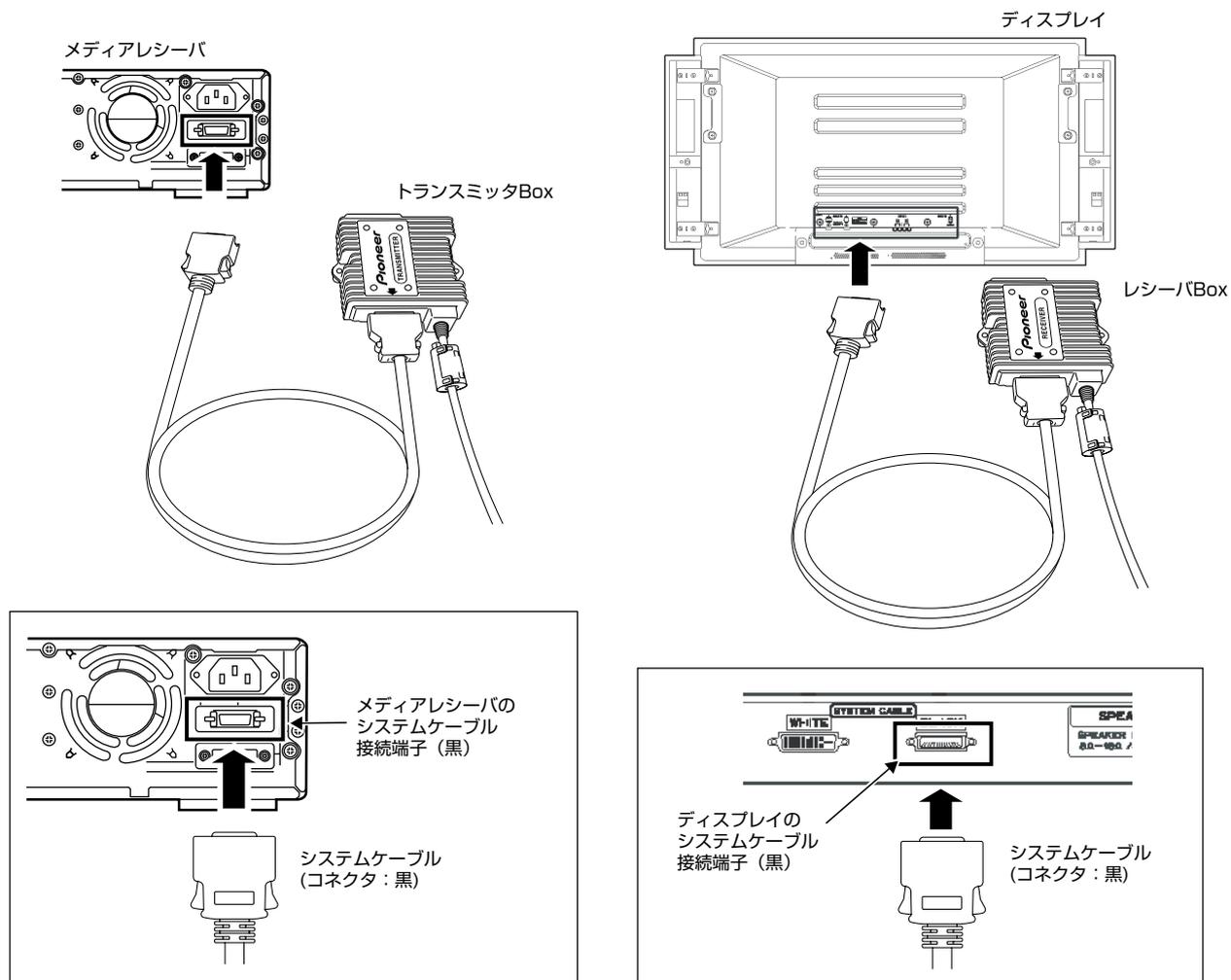


図4 - システムケーブル（コネクタ：黒）の接続

9-3 光ケーブルの接続

トランスミッタ／レシーバBoxの防塵キャップを取り外します。図5に示されているように、光コネクタと光レセプタクルの誤挿入防止キー方向を合わせ、まっすぐに「カチッ」と音がするまで差し込んでください。

- 注意：
- 光ケーブルを接続するまで、トランスミッタ／レシーバBoxならびに光ケーブル用の防塵キャップは外さないでください。
 - 光コネクタ先端を手で触れたり、落としたりしないように注意して取り扱ってください。
 - トランスミッタ／レシーバBoxから光コネクタを取り外す際には光ケーブルを引っ張らず、必ず光コネクタ両側面にあるクリップを押しながままっすぐに引き抜いてください。

① 光ケーブル、リピータ Boxの防塵キャップは接続直前まで外さないでください。

② 光ケーブルをリピータ Boxに接続する場合は必ずクリップを持ってまっすぐ挿入して接続してください。

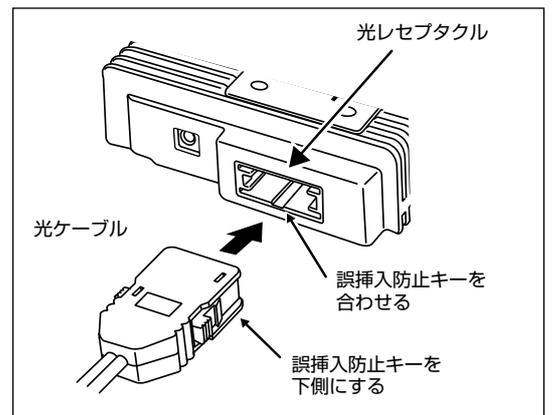
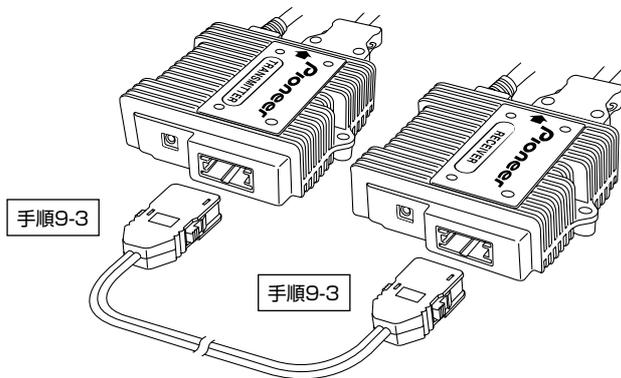
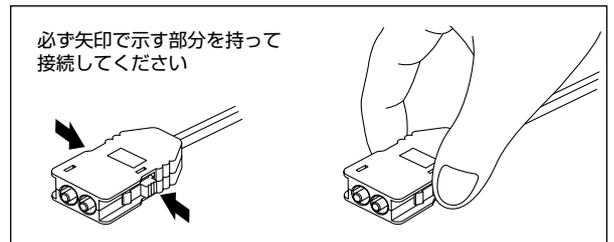
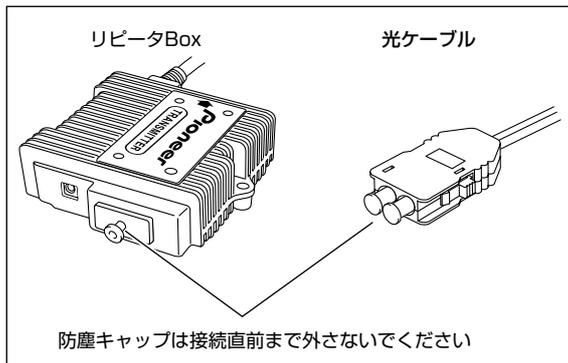
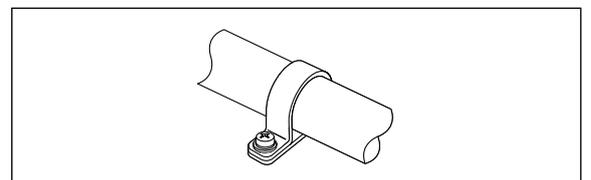


図5 - 光ケーブルとリピータ Box の接続

- 光ケーブルは衝撃やストレスを加えるとケーブルの変形や断線により伝送不能となることがあります。固定する場合、ステップルなどの衝撃のかかる方法はさけ、右図のようなケーブルクランプを用い衝撃やストレスのかからない方法で固定するようにしてください。
- 接続していない光コネクタは防塵キャップを付けてください。
- 光コネクタ部分および光レセプタクルに異物が付着した場合や、入った場合、正常に動作しない場合があります。
- 光ケーブルを曲げるときには半径 15mm 以上を確保してください。
- 光コネクタには方向性があります。誤挿入防止キーの方向をよく確認して接続してください。
- この光ケーブルは屋内配線用です。屋外には敷設しないでください。



禁止 トランスミッタ Box の電源が ON の間は、決して光レセプタクルの内部および光コネクタ先端部を直視しないでください。レーザー光が目にあたると視力障害を起こすことがあります。



9. 光システムケーブルの接続の手順

9-4 AC/DC 電源アダプタの接続

電源アダプタをトランスミッタ Box とレシーバ Box に接続します。

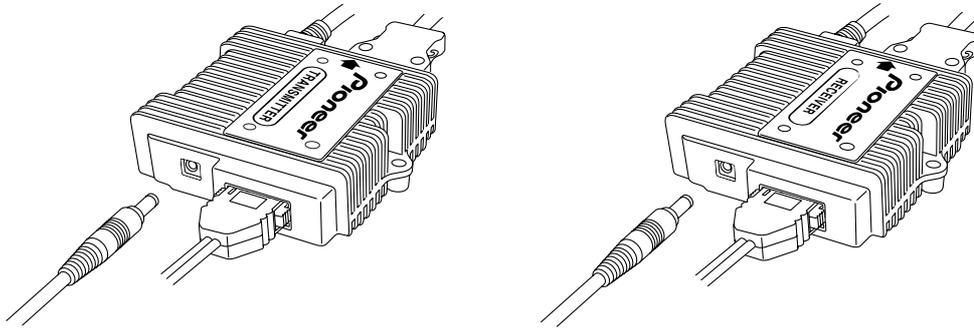
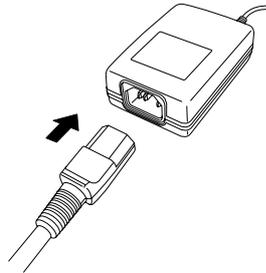


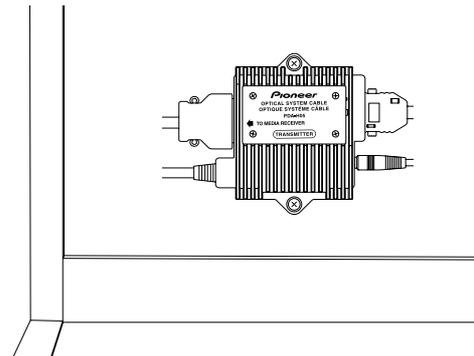
図 6 – AC/DC 電源アダプタの接続

次に、付属の電源コードを AC/DC 電源アダプタに接続し、コンセントに差し込みます。



以上でオプションケーブルの接続は完了です。メディアレシーバ、ディスプレイの電源コードをそれぞれコンセントに差ししてください。電源が ON の状態で各ケーブルの抜き差しをされますと故障の原因になりますのでご注意ください。メディアレシーバとディスプレイの電源は、リピータ Box の電源が ON となっていることを確認した後に ON にしてください。

- リピータ Box を固定する場合は配線が側面に出るように家の壁面などにネジで固定してください。



トランスミッタ Box の裏面には米国 FDA、レーザー製品に対する安全規格により定められた内容を含む右記ラベルが添付されています。

PDA-H05	PIONEER CORPORATION 4-1 MEGURO 1-CHOME MEGURO-KU TOKYO 153-8654 JAPAN
INPUT RATING: 6V \approx 0.8A	
SERIAL NUMBER: [REDACTED]	
MADE IN JAPAN / FABRIQUE AU JAPON	
Complies with FDA performance standards for laser products except for deviations pursuant to Laser Notice No.50, dated July 26, 2001.	
[CLASS 1 LASER PRODUCT]	
This device complies with Part 15 of the FCC Rules. Operation is subject to the following two conditions: (1) this device may not cause harmful interference, and (2) this device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.	
This Class B digital apparatus complies with Canadian ICES-003. Cet appareil numérique de la classe B est conforme à la norme NMB-003 du Canada.	
ODVI-03-PIM-01-TX 06-1001-8500	

PDA-H05	PIONEER CORPORATION 4-1 MEGURO 1-CHOME MEGURO-KU TOKYO 153-8654 JAPAN
INPUT RATING: 6V \approx 0.8A	
SERIAL NUMBER: [REDACTED]	
MADE IN JAPAN / FABRIQUE AU JAPON	
Complies with FDA performance standards for laser products except for deviations pursuant to Laser Notice No.50, dated July 26, 2001.	
[CLASS 1 LASER PRODUCT]	
This device complies with Part 15 of the FCC Rules. Operation is subject to the following two conditions: (1) this device may not cause harmful interference, and (2) this device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.	
This Class B digital apparatus complies with Canadian ICES-003. Cet appareil numérique de la classe B est conforme à la norme NMB-003 du Canada.	
ODVI-03-PIM-01-TX 06-1001-8500	

10. トラブルシューティング（故障かな？と思ったら）

画面が真っ黒なままの場合

- 外部電源用として使用されているすべてのプラグやジャックが、確実に接続されているかを確認してください。
- 4つのLEDが全てグリーン点灯しているかを確認してください。
- トランスミッタ/レシーバBoxが、それぞれメディアレシーバとプラズマディスプレイに正しく接続されているかを確認してください。
- 光システムケーブルを再接続したあとに、メディアレシーバ、プラズマディスプレイの電源をONにしてください。
- トランスミッタ/レシーバBox内のコネクタや、光ケーブルの金具部にホコリがたまっていないかを確認してください。また作業時は、電源をOFFにしてください。

画面が湾曲する場合やノイズが生じる場合

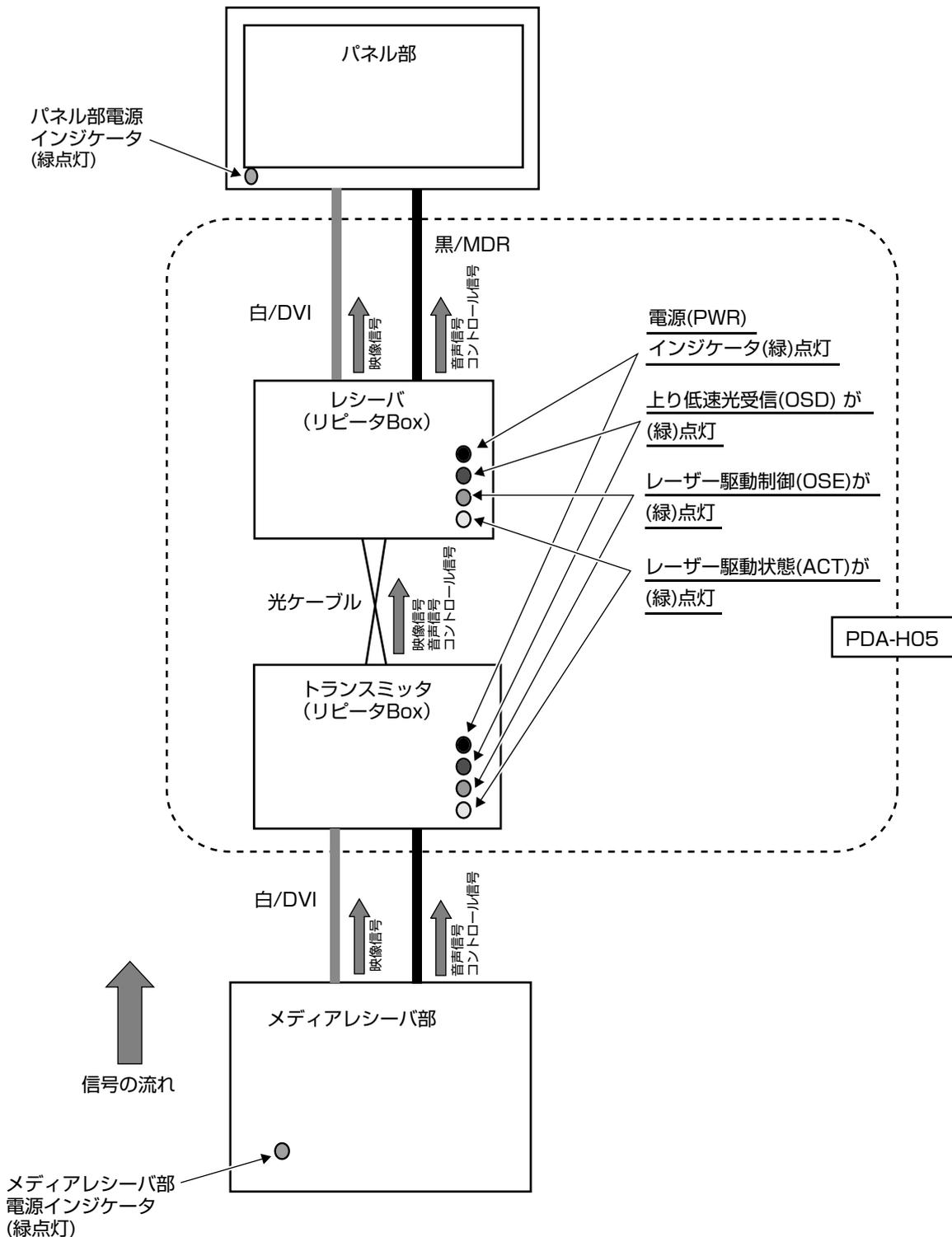
- 光ケーブルを再接続したあとはシステム（メディアレシーバ、プラズマディスプレイ、光システムケーブル）を再起動してください。
- トランスミッタ/レシーバBox内のコネクタや、光ケーブルの金具部にホコリがたまっていないかを確認してください。また作業時は、電源をOFFにしてください。

10. トラブルシューティング (故障かな?と思ったら)

映像、音声が出ない/セットの電源が入らない場合

■ PDA-H05 とパネル・メディアレシーバ接続設置状態

信号の流れおよび、正常動作時の各機器のインジケータの状態を示す



- 次項は PDA-H05 の不具合箇所特定のための判断フローです。先にプラズマディスプレイの動作に異常が無いことを標準のシステムケーブル使用して確認してください。
- イラスト中の は、サービス対応が必要です。パイオニア・カスタマーサポートセンターへ連絡してください。

10. トラブルシューティング（故障かな？と思ったら）

■ 映像、音が出ない場合

プラズマディスプレイのパネル部の電源インジケータおよびメディアレシーバ部の電源インジケータが緑点灯していること。該当しない場合は、『セットの電源が入らない場合』を参照してください。



10. トラブルシューティング（故障かな？と思ったら）

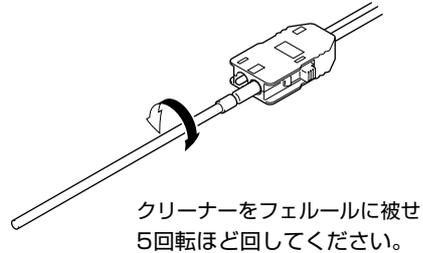
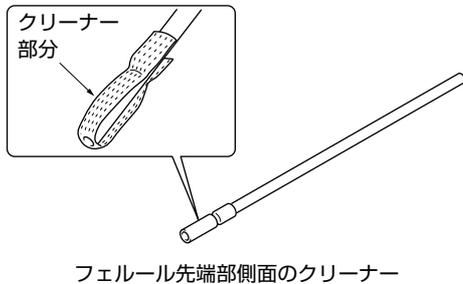
接続したが正常に動作しなかった場合

コネクタ部が汚れている可能性があります。下記の作業をして再び接続してください。

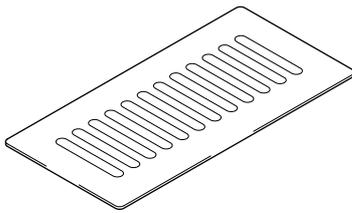
● 光ケーブルのクリーニング（AZE1141）

1. 光ケーブル先端（フェルール）部側面のクリーニング

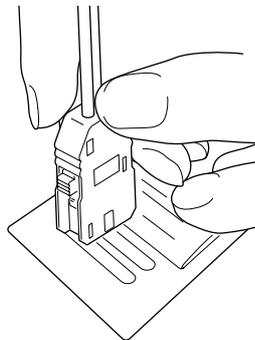
※ クリーナーの使用回数は1回のみです。1カ所に1本使用してクリーニングしてください。



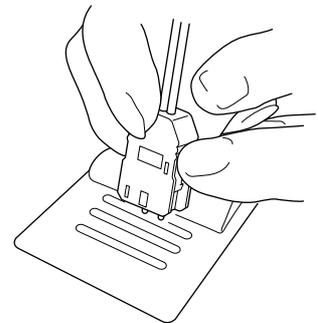
2. 光ケーブル先端のクリーニング



フェルール先端部のクリーニングシート



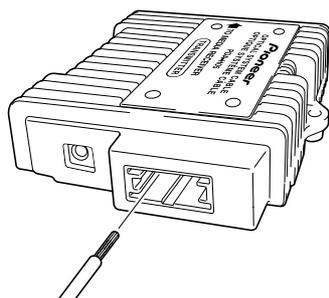
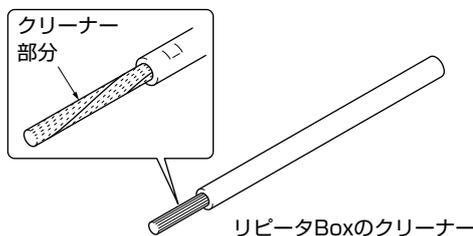
① クリーニングシートにフェルール先端部を垂直に当て、1~2回擦ってください（押しつける強さはペンで字を書くくらいの力）。



② ケーブルの角度を90° 変えて、再度フェルールのクリーニングを行ってください。この時、クリーニングシートは前回と違う部分を使用してください。

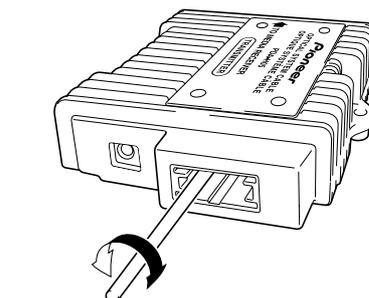
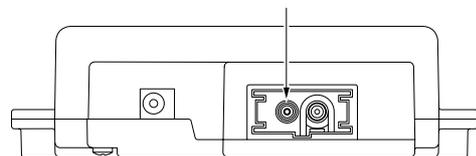
● リピータ Box のクリーニング

※ クリーナーの使用回数は1回のみです。1カ所に1本使用してクリーニングしてください。



② クリーナーをコネクタの奥まで挿入してください。

① コネクタ内部の筒の中にクリーナーを入れてください。



③ クリーナーを穴に挿入後、クリーナーを数回、回してください。

11. アフターサービス

アフターサービスについて

1. この商品には保証書を別途添付しております。
2. 保証書の記載内容によりお買い上げの販売店が修理します。その他詳細は保証書をご覧ください。
3. なお、保証期間中の修理などアフターサービスについてご不明の場合はお買い上げの販売店かご相談窓口にお問い合わせください。

本品の機能を十分に発揮させて効果的にご利用いただくため、ご使用前にこの設置マニュアルを最後までお読みください。お読みになったあとは必ず保存してください。万一ご使用中にわからないことや不具合が生じたとき、きっとお役に立ちます。

保証期間経過後の修理については販売店にご相談ください。メーカーは販売店からの注文により補修用性能部品を販売店に供給します。

当社はこの製品の補修用性能部品を製造打切後、8年間保有しています。補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

接地接続は必ず、電源プラグを電源につなぐ前に行ってください。また、接地接続を外す場合は、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

